

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年10月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、9/3のWTI原油は、先週比0.55ドル高の69.29ドルとなりました。週末に大型ハリケーンアイダが上陸した米南部ルイジアナ州で大規模な洪水や停電が発生し、供給逼迫懸念による買いと製油所の原油需要が減少するとの観測による利益確定売りが交錯しました。OPECプラスは1日、テレビ会議で閣僚級会合を開き、7月の前回会合で決めた毎月日量40万バレルずつ増やしていく方針を堅持しました。米エネルギー情報局(EIA)が1日発表した国内原油在庫は前週比720万バレル減と市場予想の310万バレル減を大きく上回り4週連続の取り崩しとなった一方、ガソリン在庫は130万バレル増と市場予想の160万バレル減に反して増加しました。またEIAの統計によれば国内の石油需要は日量2280万バレルと過去最高水準に達しました。

●第2週、週末9/10のWTI原油は、先週比0.43ドル高の69.72ドルとなりました。サウジアラムコは、10月分のアジア顧客向け原油公式販売価格(OSP)を4カ月ぶりに引き下げました。中国当局はエネルギー価格の高騰に対応するために原油備蓄を入札により放出すると発表しました。またEIAが発表した週間統計では、原油在庫が前週比150万バレル減と減少幅は市場予想の460万バレルに届かず下げ要因となりました。一方、ハリケーンアイダの影響でメキシコ湾沖合では4分の3超(日量140万バレル)の石油生産が停止しており、石油生産再開の目途はたっており今後数週間停止が続くとの見方が浮上り供給逼迫への懸念が台頭し上げ要因となりました。

●第3週、週末9/17のWTI原油は、先週比2.25ドル高の71.97ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)が月報で、主にアジア地域では新型コロナウイルス禍で導入された行動規制の緩和が進んでおり10月の世界石油需要は4カ月ぶりに持ち直すと分析しました。また米ニューヨーク連邦準備銀行発表の9月のニューヨーク州製造業景況指数は34.3(市場予想18.0)と前月の18.3から大幅に上昇しました。さらにエネルギー情報局(EIA)が発表した週間統計では、原油在庫が前週比640万バレル減と市場予想の350万バレル減を大幅に上回る取り崩しとなりました。これらを受けて需給引き締め観測が強まり原油は一時73.14ドルまで上昇しました。

●第4週、週末9/24のWTI原油は、先週比2.01ドル高の73.98ドルとなりました。米メキシコ湾岸の一部の石油関連施設は、ハリケーンアイダ等の影響が長引き完全に復旧するまで今後数カ月かかる可能性が浮上り供給逼迫懸念が広がっています。これに伴い国内外で在庫が急減しています。また米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小開始が11月にも決定されると示唆されたほか、利上げ開始時期も前倒しされました。米景気の回復の足取りが順調であると受け止められ、米株式相場が大幅に上昇し投資家のリスク回避姿勢が後退する中、原油にも買いが入りました。

9月平均	WTI原油	71.54ドル	前月比	3.83ドル	為替 1ドル	111.17円	前月差	0.32円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	変動幅	変動幅
9/1~9/1	-2.0	-2.0
9/2~9/8	+3.0	+3.0
9/9~9/15	+0.5	+0.5
9/16~9/22	±0	±0
9/23~9/29	+1.5	+1.5
9/30~9/30	+1.5	+1.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年4-6月C重油決定価格	58,390	60,390	58,390(メニュー)+2,000(プレミアム)
2021年7-9月C重油仮価格	63,890	65,890	63,890(メニュー)+2,000(プレミアム)	
2021年7-9月C重油決定価格	63,070	65,070	63,070(メニュー)+2,000(プレミアム)	
決定価格4-6月比	4,680			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2021年4-6月(決定価格)	64,400	69,000
2021年7-9月(仮価格)	70,000		
2021年7-9月(決定価格)	69,400	73,300	
決定価格4-6月比	5,000	4,300	

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/8	9桁速報	50,982	73.76	109.89	1,108
	21/9	最終予測	49,885	72.17	109.89	-1,097
	21/10	展望	50,285	73.34	109.00	400
	21/11	展望	50,084	73.39	108.50	-201

【次世代エネルギー】<三菱商事、シェル・カナダと水素製造の覚書締結>

三菱商事は、シェル・カナダとカナダ・アルバータ州エドモントン市近郊でのCCS(CO2の回収・貯蔵)による水素製造に関する覚書を締結したと発表した。三菱商事は、シェル・カナダの化学工場の隣接地に水素製造設備を建設。2020年代後半に年間16万5千トンの水素を製造し、輸送効率の高いアンモニアに転換して日本に運ぶ計画だ。次世代エネルギー源として注目される水素の実用化をめぐるサプライチェーン確保の取り組みが広がってきた。水素の製造過程で発生する二酸化炭素は、シェル・カナダがアルバータ州で開発中のCCSプロジェクトにて地下に貯留する。年間1千万トン以上の二酸化炭素を貯留できるための権利取得を目指す。カナダ政府は、環境に負荷を与えるガスの排出を実質的にゼロとする取り組みの中で水素を重要エネルギー源と位置づけ、水素の主要輸出国であるとともに水素技術のグローバルリーダーとする目標を掲げた。エドモントン市近郊は水素の原料となる天然ガス資源が豊富で、地下には二酸化炭素の十分な貯留容量も確認されている。日本への輸入に当たっては、水素は運搬が容易なアンモニアに転換する。アンモニアは既に肥料や各種化学品の原料として、運搬・貯蔵などの流通体制が確立している。三菱商事は、これまで培ってきた知見を活かし、水素とアンモニアのサプライチェーン構築に貢献するとともに、安定供給と脱炭素化を両立させることで経済価値と社会価値、環境価値を同時に実現し、持続的な成長を目指す。

【出典】①<https://www.logi-today.com/455027> ②<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC080ME0Y1A>

【10月価格変動要因】

●需要面:中国がロックダウンを解消し日本を含むアジア圏で新型コロナウイルスの感染が落ち着き始め、需要は回復傾向にあります。加えて欧州の電力不足の影響で原油需要が一層高まる可能性があります。

●供給面:ハリケーンアイダの影響でメキシコ湾岸の製油所の生産が日量40万バレル生産停止状態になっており結果としてOPECプラスの増産分を打ち消しています。またOPEC加盟国の増産も思うように進まず生産量も伸び悩んでいます。一方、米国のリグ稼働数は増加を続けており今後シェールオイル増産もあり得ます。

●在庫面:ハリケーンアイダの影響が、予想以上に長引いた影響で原油在庫は3年ぶりの低水準に落ち込んでいます。メンテナンスシーズンに入ることで原油在庫の積み増しが予想されますが、ハリケーンの影響で原油の生産が思うように進まず在庫取り崩しが続いた場合、相場を大きく押し上げる要因になります。

●リスク資産:米連邦公開市場委員会(FOMC)で年内のテーパリングがほぼ確実となりました。これを受け金利は上昇しドル高に進行し株価やリスク資産の上値を抑える可能性があります。また中国では、不動産市況が急速に悪化しており中国発のリスク資産全面安には注意が必要です。

<10月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	82	79
Average	77	74
Low	72	68

日付	国	10月経済指標カレンダー	日付	国	10月経済指標カレンダー
1	欧	9月消費者物価指数(HICP、速報値)	15	米	9月小売売上高
1	米	8月個人消費支出(PCEデフレーター)	20	欧	9月消費者物価指数(HICP、改定値)
1	米	9月ISM製造業景況指数	26	米	9月新築住宅販売件数
5	米	9月ISM非製造業景況指数	28	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利
6	米	9月ADP雇用統計	28	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
8	米	9月非農業部門雇用者数変化	28	米	7-9月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
8	米	9月失業率	29	欧	10月消費者物価指数(HICP、速報値)
8	米	平均時給	29	欧	7-9月期 四半期域内総生産(GDP、速報値)
13	米	9月消費者物価指数(CPI)	29	米	7-9月期 四半期雇用コスト指数
13	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	29	米	9月個人消費支出(PCEデフレーター)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。